

令和3年7月つくば市教育委員会定例会会議録

1 会議日時

令和3年7月26日（月）

2 会議場所

本庁舎2階 会議室201

3 出席委員

教育庁	森田	充
委員	柳瀬	敬
委員	倉田	廣之
委員	和泉	なおこ
委員	成島	美穂

4 欠席委員 なし

5 委員以外の出席者

教育局長	吉沼	正美	特別支援教育推進室長	土田	圭子
教育局次長（兼）			教育相談センター所長	岡田	太郎
教育施設課長	飯泉	法男	総合教育研究所所長	山田	聡
教育局次長	貝塚	厚	生涯学習推進課長	大久保	文子
教育総務課長	笹本	昌伸	文化財課長	石橋	充
学務課長	下田	裕久	中央図書館長	柴原	徹
健康教育課長	柳町	優子	中央図書館副館長	松浦	智恵子
学び推進課長	横田	康浩	企画監	澤頭	由紀子
			教育施設課長補佐	大口	勝也

6 傍聴人 2人

7 議事

(1) 案 件

議案第34号	社会教育委員の委嘱について
議案第35号	図書館協議会委員の任命について
議案第36号	教科用図書の採択について
報告第14号	臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（学校評議員

の解嘱及び委嘱について)

報告第 15 号 臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について (奨学金の支給の決定)

8 会議の概要

◎ 開 会

午後 1 時 00 分開会

森田教育長	それでは定刻になりましたので、ただいまから令和 3 年 7 月の定例会を開催いたします。本日もお忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございます。今日は全員参加ということでこのまま進めさせていただきます。
◎議事録の承認	
森田教育長	初めに議事録の承認ですけれども、令和 3 年 6 月定例会分を委員の皆様事前に確認していただいています。修正がないようでしたら議事録をこのとおり承認させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。
委員一同	はい。
森田教育長	ありがとうございます。では、署名人は倉田委員にお願いいたします。
◎教育長の報告	
森田教育長	続きまして、教育長報告でございますが、今回は、夏休みの過ごし方、特に 1 人 1 台端末の活用についてお話をさせていただきます。つくば市教育局では、今年度は「教え」から「学び」への転換ということが第一命題ですけれども、それに合わせまして、いつでもどこでも誰とでも、端末を使って学ぶ、そして、交流するというところで「つくばシームレス教育」という名前で進めているところです。今も言いましたように、シームレスですので、学校でも学校外でも、時間にも場所にも制約されずに最適な学びができるということを目指しています。そういうことなので、うちの近所の子どもたちも 6 年生の修学旅行に端末を持って行って、調べてすごく楽しかった、いろいろな記録もしてきたよ、という話を聞いています。夏休みも学習者用の端末の持ち帰りをできる限り行うようにいたしました。そして、自分自身で学びを広げたり深めたりしてもらえればと思っています。学校で学んだことを実際に調査に行つて、外出先でそれを調べてクラウド上に保存するというまとめもできるだろうし、色々な専門機関のところに行って専門家に実際に聞いてきた

	<p>ことをまとめることもできると思います。オンラインイベントなどにも沢山参加してほしいと思っています。まとめたものは、つくば市が使っているグループウェアを用いてみんなに紹介することなどができ、そして共有して学びを深めることもできると思っています。また、チャレンジスタディという、自分1人で学習ができるものもありますので、これを使った予習復習もしていただければと思っています。ただ、1人1台分の端末は用意しているのですが、様々な条件下で中には持ち帰れない子もいるようには聞いておりますので、教育局では、できるだけ条件を整えて、持ち帰りのルールの確認、学習コンテンツの紹介、保護者の皆様への問合せ先などのお知らせをして、準備を進めたところでございます。子どもたちに頑張って使ってもらえればと思っています。私の報告は以上でございます。</p> <p>では早速案件に入りたいと思います。今日は、議案が3件、それから報告が2件でございますけれども、議案第34号、第35号、報告第14号につきましては、人事案件につき非公開とさせていただきます。また、議案第36号につきましては、教科書採択の関係なのですが、文部科学省より、静謐な審議環境を確保するために色々な方法を考えてくださいという中で、茨城県第7採択地区教科用図書選定協議会においては、教育委員会の審議については非公開の取扱いとすることにしておりますので、これも非公開とさせていただきます。そして、報告第15号については、個人情報につき非公開とさせていただきたいと思いますので、今日はすべて非公開になってしまいますが、そのように進めてよろしいでしょうか。</p>
委員一同	はい。
森田教育長	<p>では、そのように進めさせていただきます。</p> <p>それでは最初に非公開案件を行いますので、傍聴人の方いらっしゃいましたら、一度退席をお願いいたします。</p>
◎議案第34号 社会教育委員の委嘱について	
森田教育長	では早速案件に入らせていただきます。まず議案第34号についてです。これについては、生涯学習推進課、よろしく申し上げます。
大久保生涯学習推進課長	説明させていただきます。 (議案に対する説明)

森田教育長	ただいまの説明に関しまして、質問や確認事項がございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。では、承認するということがよろしいでしょうか。
委員一同	はい。
森田教育長	では、承認させていただきます。
◎議案第 35 号 図書館協議会委員の任命について	
森田教育長	次に、議案第 35 号について、中央図書館、お願いします。
柴原中央図書館長	議案第 35 号について説明させていただきます。 (議案に対する説明)
森田教育長	ただいまの説明に、質問、確認事項ありましたら、お願いしたいと思います。よろしいでしょうか。では、異議ないものとしてよろしいでしょうか。
委員一同	はい。
森田教育長	はい。では、承認させていただきます。
◎議案第 36 号 教科用図書の採択について	
森田教育長	次に、議案第 36 号、教科用図書の採択について、教育総務課、お願いします。
笹本教育総務課長	議案第 36 号について説明させていただきます。 (議案に対する説明) (議案に対する質疑応答)
森田教育長	他によろしいでしょうか。では、このまま承認するということが異議はございませんか。
委員一同	はい。
森田教育長	ありがとうございます。では、承認させていただきます。

◎報告第 14 号 臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（学校評議員の解嘱及び委嘱について）	
森田教育長	それでは、報告案件に入ります。報告第 14 号、教育総務課の方でお願いいたします。
笹本教育総務課長	報告第 14 号についてご説明いたします。 (報告に対する説明)
森田教育長	何か質問はございますか。よろしいですか。では、このとおりとさせていただきます。
報告第 15 号 臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（奨学金の支給の決定）	
森田教育長	続いて報告第 15 号について、奨学金の支給の関係ですけれども、これについても教育総務課、お願いします。
笹本教育総務課長	報告第 15 号についてご説明いたします。 (報告に対する説明) (報告に対する質疑応答)
森田教育長	他はいかがでしょうか。よろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	では、このとおりとさせていただきます。
◎その他（働き方改革実践モデル校事業について）	
森田教育長	では、案件はすべて終了しましたので、その他に入りたいと思います。傍聴人の方がいらっしゃいましたら入っていただきたいと思います。 それでは、まず報告をさせていただきたいと思います。総合教育研究所、お願いします。
山田総合教育研究所長	令和 3 年度の市町村立学校における働き方改革実践モデル校事業についてご説明させていただきます。目的は、教職員の超過在校時間の削減に向けた実践研究を通して、教職員の授業の質の向上を図るための環境を創出し、その成果を県内各学校へ普及することで、本県教職員の働き

方改革の実現を目指すものです。本事業は、県からの委託を受けまして、実践モデル校としまして、市内の義務教育学校（春日学園、秀峰筑波、学園の森、みどりの学園）4校を対象に、ICTを活用した在校時間の縮減に関する研究を行います。これまでも、学校によってICTを活用して、教職員のスケジュール管理を行ったり、教材教具の準備に費やす時間を減らすためにデジタル教科書の利用をしたりするなどの取組を行ってきております。今回の実践では、次の2点の取組を行います。

1つ目としまして、定期テスト等で、デジタル採点システムを導入しまして、小計算の自動化や集計の自動化を図ることで、採点業務の効率化を図れるかについて取り組みます。このシステムの導入により、同一問題の連続採点や記号問題のAIによる自動採点ができるようになります。具体的には、夏休み中に先生方のパソコンにソフトをインストールして、これまでの手採点と今回のデジタル採点でどのような変容が見られるかということ进行调查させていただきます。これが1点目になります。

もう1点ございます。もう1点は、部活動支援において、競技や指導経験のない顧問教員の負担軽減を図るために、筑波大学のアスレチックデパートメントというところをお願いをして、各部活動からの支援をいただきまして、生徒がオンラインや録画を使って遠隔でのサポートを受ける取組を行います。今回のトライアルでは、「持続可能な部活動支援」がキーワードとなっております。筑波大学からのご紹介もありまして、つくば市SDGsパートナーである株式会社JTB茨城南支店様、それから、ソフトバンク株式会社様が協働することで、それぞれの企業の持つ強みを生かした実践を実施していくことになりました。筑波大学アスレチックデパートメント様からは、遠隔指導だけではなくて、今年度はトライアルということで、実際に筑波大学生が各学校に出向いて生徒に指導を直接行っていただくことにもなっております。また、JTB様とはスケジュール調整を、ソフトバンク様とは遠隔指導のためのタブレットをお借りすることで調整しております。現在、各学校の部活動顧問の実態に合わせて種目ごとに希望を募っており、集約して随時実施していきます。先日の夏休み前の各学校との打合せ会では、学校からは、卓球、バドミントン、サッカー、バスケットボール、剣道部から要望が出ておりまして、現在調整を進めているところです。以上になります。

森田教育長

県からの指定による働き方改革の研究なのですが、ICTの活

	<p>用が条件になっている研究なのですよね。なので、デジタル採点システムと、遠隔による部活動指導という2点が基本なのですが、部活動については、実際の指導も行ってくれるというものです。</p> <p>何か質問やご意見ありましたらお願いしたいと思います。はい、成島委員お願いします。</p>
成島委員	<p>このモデル校としての取組は、期間はどのぐらいですか。</p>
山田総合教育 研究所長	<p>今年度だけです。</p>
成島委員	<p>ありがとうございます。</p>
森田教育長	<p>はい、他にはいかがですか。</p>
柳瀬委員	<p>今年度ということですが、もう7月ですよね。実際にやることは限られてくると思うのですが、部活動の支援についてはどの辺に焦点を当ててるのですか。</p>
山田総合教育 研究所長	<p>マッチングさせることに非常に時間がかかるかと思ひまして、今、各学校から希望があったところで、実際に筑波大学の方でできる部活動にもう1回改めて聞いていただいて、この後は随時できるところから実施に入っていくということになっております。何回に行うかとか、どの時期になるかというのもそれぞれに任されているのですが、12月ぐらいを目処に実施する予定です。</p>
柳瀬委員	<p>12月を目処ですね。今初めてお伺いした原案なので、とにかくやりました、で終わってしまうような感じがして、実際の研究の中身がどれぐらい出てくるのかなというのが、ちょっと心配かなとは思いますが、先生方の働き方改革ということは分かるのですが、実際に子どもたちにどれぐらいプラスになるだろうかというところの検証もやっぱり大事なかなと思うのです。もともとは、先生方の働き方改革で出てきた案件だと思ふので、それが、子どもたちにプラスにならないと意味がないといひますか、その辺りをどう検証するのか、よろしくお願ひします。</p>

森田教育長	<p>大変大事なところですね。それはぜひやっていきたいと思います。働き方改革としては去年に比べてどれだけ実際の部活動の指導時間が減ったかというのは分かりやすいと思うのですが、子どものためになったのかどうかという部分については、ちょっと考えなくてはいけないかなと思いますので、そのように進めたいと思います。他にはありませんでしょうか。</p>
和泉委員	<p>これは研究が終わったら何か論文のような形で公開はされるのですか。例えば一点目は、デジタル集計など、どういうふうにデータを取るのかというところが非常に興味深くて、あと、筆記の部分はどのようにするかとか、色々関心があるので、研究結果をどういう風に公開されるのか聞きたいです。</p>
山田総合教育 研究所長	<p>これまでは子どもたちの答案用紙を順番にめくって採点をするというのが一般的だと思うのですが、デジタル採点については、まず全ての答案用紙をスキャニングして、例えば問題用紙の大問1の(1)について、子どもたち全員の回答を横に並べることができます。そうしますと、先生の中でよくあるのが、○にするか△にするか×にするか迷うというときに、先生の中の基準がぶれなくなるということと、今までは普通に答案用紙をめくっていたのがデジタル採点になった場合に先生方にどんな変容があったのかについて色々とコメントを書きいただく形になります。あと、実際に○をつければ、自動的に点数化されますので、それでどのぐらい実際の時間が短縮されるかということも併せて行っていくということになります。先生方にトライアルをしていただいて、コメントを求めていくということになります。</p>
柳瀬委員	<p>これは、先生方が、子どもたちから上がってきた答案用紙をデータとして打ち込むのでしょうか。スキャンをするのも先生方なのであれば、これは仕事が増えませんか。</p>
山田総合教育 研究所長	<p>答案用紙のスキャンは実際にこれまでもされています。まず子どもたちの不正行為を防ぐためにかなりの先生方がやられている実態がありますので、そこは変わらないと思います。それで、採点は、始めから何点か設定しておくので○をつければ自動的に何点なのか集計が進んでいくということになります。</p>

柳瀬委員	ぜひ先生方の負担が増えたという結果にならないことだけを期待しております。
森田教育長	これは採点ペンを使うと自動的に○とか×が集計されて入っていくという感じですよ。だから、今までだと○をつけて、何点なのか自分で数えて書き入れて、結果はパソコンに自分で入力するというのが、自動化されるというイメージですよ。私が若い頃も採点ペンというのがあったのですが、○や×をつけると、エクセルの方に○×がちゃんと入力されて、合計点が出てきて、計算もせずに何点か書けるというものがあったのですけれども、それをさらに良くしてある感じですかね。ぜひ期待したいと思います。他にはありますか。成島委員はいかがですか。
成島委員	県からの指導ということで、4つの義務教育学校へ選んだということだと思うのですがけれども、保護者目線だと、やっぱり義務教育学校ってすごく進んでいるのかなっていうイメージをより持たせる気がして、他の学校にもぜひ生かされるようになって欲しいなと思いました。
森田教育長	大事ですね。それはいかがですか。総研では将来、考えていることはありますか。
山田総合教育 研究所長	良い結果が出ましたら改めて予算要求させていただきます。
成島委員	小さいところだともっとやりやすいのかなと思ったので。
柳瀬委員	逆に、大きいところで出来れば小さいところでも出来るということでもありますよね。
森田教育長	そういうことなのですよ。だから、普段から大変で苦勞している学校でまずは試してみようというのがあったのでこの4校になりました。便利だったらみんなで使うので予算要求もぜひしたいと思いますので、そのときは教育委員の皆さんの声も大事ですのでぜひよろしくお願ひしたいと思います。他にはいかがですか。この件はよろしいですか。
委員一同	はい。
◎その他（各委員からの確認事項について）	

森田教育長	<p>その他、何か次までにこんなことも考えてもらえればということなどが、もし委員さんの方から何かありましたら、ご提案をいただければと思います。柳瀬委員お願いします。</p>
柳瀬委員	<p>フリースクールの件についてですが、継続して深めていきたいと思えます。1つの事例として、フリースクールに通いたいといったときに、その学校の校長先生が認めるということでしたね。校長先生が認めるための資料を出してもらおうようフリースクールにお願いしたら、それは民間でやっているから有料で、子どもが自分で証明しなければいけなかったと、学校の方に提出すると、そういう事例があったと聞きましたが、それは学校の方からそのフリースクールに資料を求めるべきではないかと思いました。有料か無料かというのはまた別として、子どもが自分でそれを証明してくださいではなく、学校の方から問合わせるべきじゃないかなというのが1点と、その時にその間に入ったのがスクールソーシャルワーカーだったということなのです。学校ではなかなか外部とのやりとりの時間がないので、スクールソーシャルワーカーが間に入ってその調査をするということだったのですが、スクールソーシャルワーカーは人数が少ないですし、フリースクールの調査というのも時間がかかるし、フリースクールを希望している子どもたちの数も多くなってきているという中で、スクールソーシャルワーカーだけでは対応できないのではないかなと思うのですが、この2点についてはどうでしょうか。</p>
森田教育長	<p>はい、教育相談センター所長、いかがですか。</p>
岡田教育相談センター所長	<p>詳しい事情を私も直接聞いているわけではないので、具体的な部分は少し難しいのですが、普通は学校が子どもからフリースクールに行っているという話を聞いたら、学校がフリースクール側に、どういうことやっているのかとか、資料を求めるのが一般的なような気はします。そのあたりのガイドライン等の整備については考えていかなければいけないと感じます。</p> <p>それから、スクールソーシャルワーカーの件ですけれども、確かに市内に3名しかおりません。今お話にあったフリースクールに行っている子どもとの間に入っての調整ということなのですが、基本的にはやはり学校の教員がやるべきことではないかなと思います。どういう経緯でそのスクールソーシャルワーカーにそれを頼んだのか私もわからないんですけども、基本的にはやはり学校がきちんと子どものことを把握し</p>

柳瀬委員	<p>て、フリースクールと連携をとるとというのが望ましいと思いますので、そこを繋ぐのはスクールソーシャルワーカーの仕事だと思いますけれども、直接的な連絡や連携は、やはりこれは学校の担任や担当教員の仕事であるかなと思いますので、その辺をもう1度確認をした上で、市内の学校で進め方など統一感を持たせていきたいと思います。</p>
柳瀬委員	<p>はい、了解しました。よろしくお願いします。</p>
森田教育長	<p>フリースクールとの連携というのは考えていかなければいけないというか、整えなくてはいけないですね。今言ったように、進めていきたいと思います。</p> <p>他にご意見がなければ、閉会にしてよろしいですか。それでは、以上をもちまして、令和3年7月の定例会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。</p>

◎ 閉 会

午後2時00分閉会宣言

会議録調製年月日 令和3年8月23日